

平成30年度 事業報告書

1. 実施概要

近年、我が国では、激甚な豪雨災害が頻発している。これらに対してこれまで、平成27年9月の関東・東北豪雨を踏まえて「水防災意識社会 再構築ビジョン」が、平成28年8月の台風被害を受けて「北海道緊急治水対策プロジェクト」が策定され、さらに水防法改正を受けて、石狩川をはじめとする各河川流域に「減災対策協議会」（国、北海道、市町村等から構成）が設置され、関係機関が連携してハード・ソフト一体となった治水対策の取組を進めている。

このような中、昨年発生した平成30年7月豪雨等では、水害・土砂災害の複合的な発生や、社会経済活動に影響を及ぼす広域的な被害の発生、ハザードマップ等のリスク情報が住民の避難につながっていない等の課題が明らかになり、これを受け、社会資本整備審議会の「大規模広域豪雨を踏まえた水災害対策検討小委員会」が昨年12月に答申をとりまとめ、多くの関係者の事前の備えと連携の強化により、複合的な災害にも多層的に備え、社会全体で被害を防止・軽減させる対策を強化すべきとしている。

また同12月、近年頻発する激甚な災害を踏まえて「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」が閣議決定された。防災のための重要インフラや、国民経済・生活を支える重要インフラについて、災害時に機能を維持できるように政府全体で集中的に対策を実施することとしている。

これらを進めるためには、河川管理者である国及び北海道、避難勧告等を行う市町村が連携するだけでなく、住民が主体的な行動をとれることが重要であり、いざという時に様々な関係者が一体となって動けるように、住民、地方自治体、国の機関が普段からコミュニケーションを重ねる場を作ることが重要である。

一方で、国においては、平成29年度に川の魅力を活かしたツーリズムとして「かわたび北海道」の推進を打ち出し、「かわまちづくり」による水辺空間の整備、河川を利用した観光コースの整備の推進等を図っている。また、サイクルツーリズムについては、石狩川流域46市町村長で構成する石狩川流域圏会議において会議設立時から、その推進を図ってきており、国においても、平成29年から北海道全体のサイクルツーリズム推進に着手し、石狩川流域圏会議が主体となった「石狩川流域圏ルート（石狩川の堤防等を走りながら新千歳空港から旭川空港を結ぶルート）」が、北海道全体5ルートの一つに位置づけられるなど、その機運が高まっている。

このような中であって、石狩川振興財団は、各市町村やNPO、市民団体及び河川管理者と連携して、安全で潤いのある流域の実現を目指して、平成30年度の事業を実施してきたところである。平成30年度においては、公益目的事業として計画額(23,100千円)とほぼ同額の23,119千円(前年度比87%)を実施した。また、受託事業として575,468千円(前年度比110%)を実施し、当期一般正味財産増減額は52,229千円増(前年度比135%)となった。

平成30年度に実施した事業は次のとおりである。

2. 公益目的事業

(1) 流域振興事業

- ① 川に関する情報や、川を軸としたまちづくりに関する情報交換を行うことを目的に、当財団が運営している「市町村河川情報委員情報交換会議(石狩川流域46市町村の担当部・課長で構成)」を、平成30年10月16日に開催した。今年度は、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震による被災状況等について情報共有するとともに、新たな取組である「かわたび北海道」、「北海道のサイクルツーリズム」について情報提供を受け、市町村が取り組んでいる川からのまちづくり等の事例が紹介された。

また、市町村に有意義と考えられる国土交通省、北海道開発局関連の情報を、「市町村河川情報委員ニュース」として、月に1度定期的にメール配信した。

- ② 石狩川流域市町村の連携を目的とする「石狩川流域圏会議」(平成23年度設立、石狩川流域の全46市町村長で構成)に対し、様々な協力・支援を行った。その中で、北海道のサイクルツーリズム推進に向けたモデルルートの一つとして登録された「石狩川流域圏ルート」の走行会(流域首長等が参加)の開催等への協力・支援を行うとともに、流域圏会議が主催して、平成30年7月30日、31日に、滝川市で行われた豪雨災害対策職員研修(市町村職員が対象)において、半日間の危機管理演習を実施した。

一昨年から3回目となる天塩川流域の市町村職員を対象とした豪雨災害対策職員研修が、30年8月21日、22日に名寄市で行われ、当財団では危機管理演習を実施した。

(2) 河川学習活動事業

- ① 砂川遊水地管理棟において、市民団体や関係機関と連携して、子どもを対象とした魚類観察会、落ち葉を利用したアートづくり、ワカサギ釣り等の河川環境学習活動を実施・支援するとともに、管理棟にある図書コーナーの子供向け図書の充実を継続して行った。平成 28 年度に砂川市在住の小学生からなる「キッズスタッフ」を立ち上げたが、30 年度も新たにメンバーを加え、来館者への説明、ワカサギ釣りイベントの参加者への説明・支援を行った。
- ② 江別河川防災ステーション等において、江別市と連携し、小学生を対象としたボート乗船による自然体験、地域の歴史や河川に関する学習活動を行った。
- ③ 石狩川流域圏会議が主催して行った調査船「弁天丸」を活用した体験学習（恵庭市、旭川市、滝川市の小学生を対象とした環境・防災教育）への協力・支援を行った。

(3) 市民団体等支援事業

- ① 河川美化、植樹、川での子供の学習活動、川に関する地域振興や教育などの活動を行う 35（継続 27、新規 8）の市民団体等に対して、計 6,470 千円（前年度比 142%）の助成を実施した。また、市民団体等が実施する河川美化活動に対してゴミ袋を提供した。
- ② 「スカイスポーツフェア」、「イランカラプテ音楽祭 in 南ふらの」等への協賛を行った。
- ③ 北海道全体の河川協力団体が参加する「北海道河川協力団体連絡会議」の設立・開催を支援した。

(4) 河川広報事業

- ① 石狩川水系の治水事業に係る地域に密着した情報を、広く道民・地域住民に提供し、河川とその周辺地域の結び付きを深めるため、広報誌「川と人」第 42 号を発行し、ホームページに掲載するとともに、印刷して、市町村、関係機関等に配付した。
- ② 河川啓発活動や川のイベントなどの情報をタイムリーに発信するとともに、インスタグラムに石狩川流域市町村等の写真をアップするなど、ホームページの充実を図った。また、石狩川流域の町や名所の撮影を引き続き

行った。

- ③ 北海道のすべての一級河川を対象に、川にまつわるイベント情報や観光情報等を一元的に発信する「かわたび北海道」ホームページを作成した。

3. 受託事業

(1) 平成 30 年度河川管理施設地域活用方策検討業務

北海道の一級河川の流域全体を対象として、川に関する情報を効果的に発信し、地域住民や観光客の水辺利用や周遊をサポートする「かわたび北海道」プロジェクトについて、その事業展開を円滑に進めるための検討を行った。

(2) 石狩川上流・天塩川上流地域連携減災対策検討業務

石狩川上流・天塩川上流における国土強靱化及び生産空間を支える施策に資するため、流域の発展を目的とする河川空間を活用した観光資源の検討や、地域防災力向上等、流域の総合的な発展に資するための検討を行った。

(3) 石狩川下流地域連携方策検討業務

地域と連携した河川管理や地域活動の活発化、防災力の向上を図るため、地域住民や地域活動団体、自治体等との連携の推進及び協働体制の構築・発展に向けた方策について検討を行った。また、「かわたび北海道」プロジェクトの展開に向けた検討を行った。

(4) 石狩川下流河川総合学習支援業務

石狩市等の小中学生や住民、市民団体に対して、学校等と連携しながら、調査船「弁天丸」や「川の模型」等を活用して、治水事業や災害の歴史、河川環境等について総合学習・社会学習の支援業務を行った。

(5) 砂川遊水地管理棟等施設管理外(滝川河川事務所)業務

治水施設である砂川遊水地管理棟の施設管理、来館者対応等を行った。

(6) 河川関連事業計画支援事業

当財団に蓄積されている河川や流域の情報を活用して、河川関連事業の計画立案を支援する業務を、札幌開発建設部本部等 10 箇所で開催した。

4. 出版事業

「生態学的混播・混植法の理論実践評価」等の書籍販売を行った。